

■ 全国障害者技能競技大会の義肢部門で金賞

長野県で10月に開催された第33回全国障害者技能競技大会(アヒリンピック)の義肢部門に初出場、金賞に輝いた。中礼義肢製作所始良工場の同僚で、世界一でもある馬場末義さん(61)に続く快挙だ。

体と義足をつなぐ「ソケット」を4時間で作り、寸法精度や強度、外観の美しさを競う。全国の舞台上に立てるのはほんの一握り。義肢部門は2人だった。基準に満たなければ、「賞の該当者なし」の厳しい審査だけに「自

坂もと
さかもと
つとむ
勉さん



分が一番驚いている」と無駄なく使うことを徹底話す。

普段は営業を担当し、県内の病院や福祉施設を回る。自身も右脚に義足をしており、「患者の気持ちに寄り添った相談と持ちに寄り添った相談と義肢作り」を心掛けていた。馬場さんに指導を仰ぎ、仕事後や休日出勤で特訓を重ね、競技時間を活だつたが、両手や両脚

熊本市の高校を卒業後、自衛隊を経て22歳で建設機械会社に転職。入社目前にバイクを運転中

み重ねかもしれない」始良市で妻と3人の子どもと暮らす。全国大会で金賞を競ったライバルを飲み会に誘うなど、出会いを大切にしている(45歳)。(社会部・永井貴士)

を失っても懸命に生きる人との交流を通し、少しずつ前向きになった。同市の義肢専門学校で学び、実習が縁で、中礼義肢製作所に27歳で入社。「大けがをすれば、何で自分だけが、と悩む。そんな人の手助けをしたい」と新人時代から義肢

か お